

4 日本工業大学

本学では、大学間連携共同教育推進事業の補助期間において、**建築学科・生活環境デザインコース（当時の生活環境デザイン学科）のカリキュラムへの彩の国連携5科目導入を完了**し、現在まで定常的に科目運営を行っている。その中で、本年度、4年ぶりに施設実習を再開した「ケア空間体験実習」と、彩の国連携力育成プロジェクトで得た知見・経験を通じて2022年度に開発された全学科1年生対象の「暮らしの支援とエンジニアの協働」について報告する。

(1) 「ケア空間体験実習」の施設実習を再開

「ケア空間体験実習」は、彩の国連携科目の「ヒューマンケア体験実習」に該当する本学の授業である。2020年度～2023年度は、施設での実習ができず、①身近なお年寄りなどからお話を伺う。②近隣の団地内にあるコミュニティーカフェの常連さんから2人1組でお話を伺う。①②の体験をグループワークで振り返る。以上の内容で構成することとなった。それぞれ及び互いの経験を通じて、コミュニケーションについて省察の機会を得ることができた。また、ヒューマンケアマインドの醸成にも寄与するものであったと考えられる。しかし、対象となる方々の生活の場に身を置く、本来のあり方での実習再開が望まれた。

本年度は、特別養護老人ホーム・杜の家やしお（2期間）、認知症高齢者グループホーム・グループホーム喜楽里に受け入れをご了解いただき、4年ぶりに施設実習として実施することができた。学生たちは2日間、各施設のユニットに身を置かせていただき、暮らしの場を体験し、利用者の方々の日々の暮らしとこれまでの人生について触れることができた。学生の振り返りとレポートから、**暮らしの環境、日々の思い、利用者と職員並びに利用者相互の関わり合いについてなど、暮らしの場での体験を通じてこそその気付きと学びが多かった**ことが窺われた。



施設ツアー（杜の家やしお）



実習風景（杜の家やしお）



実習風景（グループホーム喜楽里）

(2) 「暮らしの支援とエンジニアの協働」科目開設3年・論文掲載

彩の国連携力育成プロジェクトが進む中、本学の他学科（機械系・電気通信系・情報系など）では、工学技術を医療・福祉に応用する研究や、関連する教育プログラムが多く実践されてきた。そのような教育・研究に従事する教員が分野横断的な交流会を重ねるなかで、医療・福祉分野に関する科目開発の機運が高まっていった。彩の国連携力育成プロジェクトのメンバーである教員も、これまでの経験について交流会で報告するよう求められたのを契機に、科目開発に参画することとなった。

当初から、分野横断的な演習・実習プログラムが学生に有効であり、その中で新しい発想や幅広い視野が得られること、連携・協働についての経験が得られることが期待されていた。しかし誰のため、何のために連携・協働するのかということが必ずしも明らかでなく、開発すべき授業の目的も明確でなかった。彩の国連携力育成プロジェクトのメンバーである教員の参画により、**授業の目的は、人の暮らしの支援への関心の醸成、人の暮らしとその支援についての洞察力の獲得、チームメンバーと思いや考えを共有するための方法・工夫・態度の修得などへと収束**していった。また、人の暮らしの支援に関する実践者による講義、グループワーク、振り返り（リフレクション）の繰り返して授業を構成することとなった。そして、2021年度の試行を経て、2022年度に、人の暮らしに寄り添えるエンジニアを育てるための、全学科1年生対象の選択科目として、「人の暮らしの支援とエンジニアの協働」が開講した。

この科目は、**彩の国連携力育成プロジェクトの実践で得た知見に基づくものであり、それを全学へと波及・展開させたもの**である。以後、毎年、100名前後の学生が履修し、授業評価アンケートにおいて高い評価を得ている。授業実践の概要と成果は日本工学教育協会の学術誌『工学教育』72巻4号（2025年7月）に掲載された。